



家族に感謝、職場に感謝

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 松本 哲朗 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F
幹事 杉本 忠夫 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

インスピレーションになろう

<2018-19年度R.I.テーマ>
R.I.会長 パリー・ラシン

第1698回例会

職業奉仕月間

平成31年1月31日(木)

外部卓話

於 名古屋東急ホテル

出席計算数 47名中38名出席

出席率 80・85%

前々回出席率 78・26%

会員 55名

例年プログラム

★R財団ポール・ハリス・フェロー表彰
バツンの進呈

★内藤R財団・米山記念奨学委員会
・2018年R財団及び米山記念
奨学会確定申告用領収書配布

★外部卓話

ロータリーソング

「それでこそロータリー」

指揮者 鬼頭 茂成
ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

会員組織委員会ゲスト

(春日井和良さんご友人)

有限会社ユニワークス

代表取締役 仲林 宏昌さん

藤田医科大学

耳鼻咽喉科主任教授

内藤 健晴さん

ピクチャー

名古屋南RC

中北 英孝さん
度會 俊宏さん

ニコボックス

内藤先生、2回目のお話し楽しみにしています。 松本 哲朗

内藤先生、卓話宜しくお話しします。 杉本 忠夫

内藤先生の卓話楽しみにしています。 尾上 昇

弟が卓話させて頂きます。宜しくお願いします。 内藤 明

内藤先生、卓話よろしくお話しします。 吉田 明夫・春日井和良

木村 光徳・佐々木 功
竹林 正人・高田 知史

内藤さん卓話よろしくお話しします。 高木 政義

昨日もスキーに行ってきました。 吉田 隆彦

元気が何より。 吉田 隆彦
名古屋ロータリークラブの例会に
出席してきました。 鬼頭 茂成

会長挨拶

松本 哲朗

「恵方巻」

早いもので1月ももう今日で終わりです。次回の例会は節分例会ですが3日後の日曜日です。お間違え無いようお願いいたします。

このところ

節分に丸のま
まの太巻きを
食べるという
のが全国的な
風習になって
きました。一
応ルールがあ



って恵方に向
かって無言で
願い事を念じ
ながら食べま
るといってこ
です。ちなみ
に今年の恵方
は東北東、龍泉寺です。

元々は江戸時代の末期に大阪の船場で商売繁盛の祈願として始まったようですが、明治時代になつてすたれたのを、1977年大阪の海苔問屋の組合が海苔の販売促進のため復活させました。今ではスーパーやコンビニでも売られるようになり、豆屋さんだけでなく海苔屋さんも潤つようになったようです。このところ問題になっているのは大量の食品ロスがでていることです。賞味期限が長いパレソラインチヨコなど違い日持ちがしないので売れ残れば廃棄せざるを得ません。売値もそれを見越した値段設定になっていると思います。

無駄をなくすにはスーパー、コンビニを含め100%予約販売にするれば無駄はなくなるはず。我が家も予約しようかと尋ねてみたのですが家で作るということでした。手間はかかりますが家で作れば無駄はでません。

皆さんもお願いして作っていただくか、ご自分で作るかしていただくか、ご自分で作ります。

卓話

「花粉症のお話」

藤田医科大学

耳鼻咽喉科主任教授

内藤 健晴さん

3年前の卓話では、「花粉の飛散数と症状の関係」、「鼻つまりのメカニズム」、「黄砂の影響」、「治療の簡単な紹介」をしました。前回、時間の関係でまだお話できていなかったことを第2弾として「花粉症の話2」と題してお話させていただきます。

まず最初に、「なぜこんなに花粉症が増えてきてしまったのか?」ということを科学的検証を元にお話します。戦後経済復興のために材木の需要が増え、産業活用しやすいスギ、ヒノキの植林を国を挙げて行いました。その結果、スギ、



ヒノキ花粉飛散数が増えたのが花粉症増加の大きな要因です。



次に、大気の汚染、特に自動車排気ガスによる汚染は二次的な原因となりました。そして感染症(結核や寄生虫)の減少が人間をアレルギーに傾きやすくしてしましました。それら人為的な理由で日本人の4人に1人が花粉症になってしまいました。

もう一つの話題は「自己防衛手段」についてです。私たちが医師は薬剤や手術で患者さんのお役に立つようにはしていますが、皆ご自身も日常で対応できる方法もあります。花粉飛散シーズンには外出時の花粉対策用眼鏡、マスク、帽子、外套衣の着用、帰宅後に花粉を屋内に持ち込まない、布団を屋外に干さない、空気清浄機使用、転地療法、生活のリズムを整えるなど、自己防衛対策についてお話をしました。私のお話が皆様の健康にお役に立てば幸いです。

「R財団PRHF表彰
バッジの進呈」
ポール・ハリス・
フェロー
(2回目)
佐々木 功



その他・お知らせ

R-会長からのメッセージ

2019年2月
18-19年度 R-会長
ハリ・ラソン

昨年、私は世界各地を旅する中で、地域に変革を巻き起こしている、数多くの活気にあふれた充実したクラブや地区を訪れました。例会に出席すると、彼らのエネルギーを感じ取るのができました。会員と知り合つて、世界を変える行動人であることが見て取れました。地域を訪れると、ロータリアンの奉仕活動の結果を見ることができました。

一方で、社交クラブと何ら変わらないロータリークラブも地域によってはありません。そうであってもいけないのです。しかし辛いなことに、どんなクラブでも再活性化できる単純なアプローチがありません。

「影響力が大きい奉仕プロジェクトを最低でも1件はやってみせましょう」これが私からすべてのロータリークラブへの挑戦状です。どのクラブにも、そうするだけの潜在力、リソースは備わっています。人ひとりの生活を根底から変える力があるのです。

それには何百万ドルもかかるわけではありません。私がこれまでに参加したプロジェクトの中でも最大級の変化をもたらしたあるプロジェクトでは、ハイチの助産婦たちにシープを1台寄贈しました。何かできることはないか彼女たちに聞いたところ、人里離れた地域に暮らす妊婦を訪問するための移動手段がない、というのがです。そこで私たちは、ピンク色に塗ってロータリーのロゴを描いたシープを提供しました。その3年後、彼女たちがどうしているか様子を見るに、ふたたびハイチを訪れました。すると、みんな結果に大喜びしていました。その地域の母子の死亡率が50%も下がったそうです。これこそ、変化をもたらす奉仕です。

とはいっても、シープは永遠に走り続けるわけでもなく、8年現役を務めたその車はそろそろ引退の時期でした。そこで、今度はピンク色のランドクルーザーを購入。今でも現役で、妊婦健診を必要とする僻地に暮らす女性のもとに助産婦を送り届けています。

変化をもたらすプロジェクトとは一体どういふものなのでしょう。多額の資金が必要なわけではありませんが、人ひとりに働きかけ、地域に大きな影響をもたらすものでなくてはなりません。それが秘訣です。そのためにも、慎重な計画と徹底した調査が必要なのです。ですから、しっかりと調査を行い



ましょう。リソースを活用しましょう。影響力を高めてくれるパートナーを探しましょう。そして、行動を起こすのです。もちろん、強固なクラブに必要なのは奉仕活動だけではありません。人の心をつ

かむ講演者を擁し、指導者育成を行い、ロータリーアクトとインターアクトの参加を促し、会員に価値をもたらすし、ロータリーの行事に参加する理由を与えます。

変化をもたらす、よく組織だったクラブなら、ほかのことは自然とついてきます。会員の参加度は高まり、新会員もどんどん集まります。資金調達は楽になります。寄付金がこのように違いをもたらしているかが分かり、その団体が説明責任を果たしていることが分かる。人ひとりは積極的に寄付するものです。クラブは活力にあふれ、重要性が高まり、命の通ったものになります。そして、クラブ

会員にとっても、クラブが奉仕する地域にとっても、そのクラブはインスピレーションとなるのです。(国際ロータリーPRFより)

2月21日(木)例会の案内

例会変更 2月18日(月)

西名古屋分区分区M

於 名古屋観光ホテル

ホスト: 名古屋中PRC

受付15時00分 開会16時00分

懇親会18時30分より

公共イメージ向上委員会

前田 隆久・杉浦 令淑
川畑 博敏・竹林 正人
*本文は、原則 頂いた
原稿を転載しています。